

リスク評価と会衆礼拝を再開する場合の留意点

表 都道府県別リスク評価

都道府県	4月19～21日					5月8～10日				
	新規 感染数 平均	会衆の人数				新規 感染数 平均	会衆の人数			
		100 人 以上	50～ 99人	20 ～49 人	20 人 未満		100 人 以上	50～ 99人	20～ 49人	20人 未満
北海道	22.0	A	A	A	B	8.7	A	B	B	B
青森県	0.0	C	C	C	C	0.0	C	C	C	C
岩手県	0.0	C	C	C	C	0.0	C	C	C	C
宮城県	0.3	B	C	C	C	0.0	C	C	C	C
栃木県	2.3	A	B	B	B	0.3	B	C	C	C
群馬県	3.7	A	B	B	B	0.0	C	C	C	C
埼玉県	19.7	A	A	B	B	10.7	A	B	B	B
茨城県	2.7	B	B	B	C	0.0	C	C	C	C
千葉県	20.3	A	A	B	B	2.3	B	B	C	C
東京都	110.7	A	A	A	B	32.3	A	A	B	B
神奈川県	20.0	A	A	B	B	9.0	B	B	B	C
山梨県	0.7	B	B	B	C	0.0	C	C	C	C
長野県	2.3	A	B	B	B	0.7	B	B	C	C
静岡県	1.0	B	B	C	C	0.0	C	C	C	C
愛知県	10.3	A	B	B	B	1.0	B	C	C	C
岐阜県	2.3	A	B	B	B	0.0	C	C	C	C
三重県	2.0	A	B	B	B	0.0	C	C	C	C
富山県	12.0	A+	A	A	A	1.3	A	B	B	B
京都府	7.3	A	A	B	B	1.7	B	B	B	C
大阪府	62.0	A	A	A	B	12.3	A	B	B	B
兵庫県	13.7	A	A	B	B	4.7	B	B	B	C
香川県	1.0	A	B	B	B	0.0	C	C	C	C
愛媛県	1.0	B	B	B	C	0.0	C	C	C	C
広島県	3.0	A	B	B	B	0.0	C	C	C	C
山口県	0.3	B	B	C	C	0.0	C	C	C	C
福岡県	13.0	A	A	B	B	1.0	B	C	C	C
熊本県	1.7	B	B	B	C	0.3	B	C	C	C
宮崎県	0.0	C	C	C	C	0.0	C	C	C	C
沖縄県	5.0	A	A	B	B	0.0	C	C	C	C

A+ リスクが非常に高い($E > 0.1$)

A リスクが高い($E > 0.01$)

B リスクはやや高い($0.01 > E > 0.001$)

C リスクが高いとは必ずしも言えない($E < 0.001$)

【リスク評価】

・第3信でお知らせした4月19～21日と比較して、連休明けの5月8～10日では、すべての都道府県で感染者数は減少しています。

・これに伴って、リスク評価も低下傾向にあり、会衆50人以上でA評価となっているのは東京のみ100人以上でA評価は北海道、埼玉、富山、大阪であり、他の府県ではいずれの会衆の人数でもBあるいはC評価となっています。

・リスク評価指標の意味を改めて説明すると、たとえば100人以上のクラスで評価がBである場合、その都道府県の人が100人集まる中に存在する感染者の人数（それをEと表わしています）が0.001～0.01人という意味です。言い換えると、会衆が1万人～10万人だとしたら、その中に1人の感染者がいると予想されるということです。この予測は、毎日新たに発見されている陽性者の50倍の感染者が市中にいるという仮定を元に行っています。各地で発表された抗体検査の結果から、この仮定は大きく外れてはいないと思われる。

・政府や自治体が警告を発しているように、気を緩めれば再び感染が拡大する恐れは常にあります。しかし、こうしたリスク評価を見れば、現在会衆が集まることを止めている教会も、会衆の召集を再開することができる状況は整ってきていると考えて良いのではないのでしょうか。

【会衆礼拝を再開する場合の留意点】

① 感染のリスクの高い人には、出席を自粛していただくこと。

・新型コロナウイルス感染者との濃厚接触者。（接触があってから2週間以上、体調に問題がなければ出席可能と思われる）

・咳、発熱、倦怠感、味覚障害などの症状があった人（症状が治まって2週間たてば、出席可能と思われる）。

・高齢者や、持病があって、感染した場合に重症化する恐れのある人。

② 感染防止のための衛生対策を徹底すること。

・教会に来た時に手洗いをしっかりしてもらう。洗面所にはペーパータオルを用意する。

・マスクをしていただく。奉仕者もマスクを着用する。マスクのない方のために、教会である程度のマスクを用意しておいた方がいいでしょう。

・礼拝中、30分に一回程度、窓を開けて換気する。窓が開けられない場合は、ドアを開けるなどして、空気が淀まないようにしてください。

・全員がマスクを着用し、着席のまま、大きな声を張り上げないようにすれば、賛美や全員による主の祈り、信仰告白、交読などは問題ないと思います。

・挨拶の際に、握手やハグをしないように注意を促して下さい。

・施設の消毒については、感染の恐れのある人が来会したことが判明した場合を除いて、必ずしも徹底的に行う必要はありません。ドアノブなど、多くの人が頻繁に触れる場所のみ、消毒液があればそれを使って、特になければ清潔な濡れティッシュなどで拭けば十分です。

・食事の交わりは、当面自粛の方がいいでしょう。

③ 安全な人数を設定すること。

・上記のリスク評価がB以下となる人数を一つの目安として下さい。

・実際には、会堂の広さや環境によって変わりますので、それぞれの教会として「安全な人数」を設定して下さい。

・その「安全な人数」を教会員にも案内した上で、適宜、来会とウェブを選択してもらうことにより、適切な人数になるように調整するところから、会衆礼拝を再開してはいかがでしょうか。

（文責 吉田浩二）